



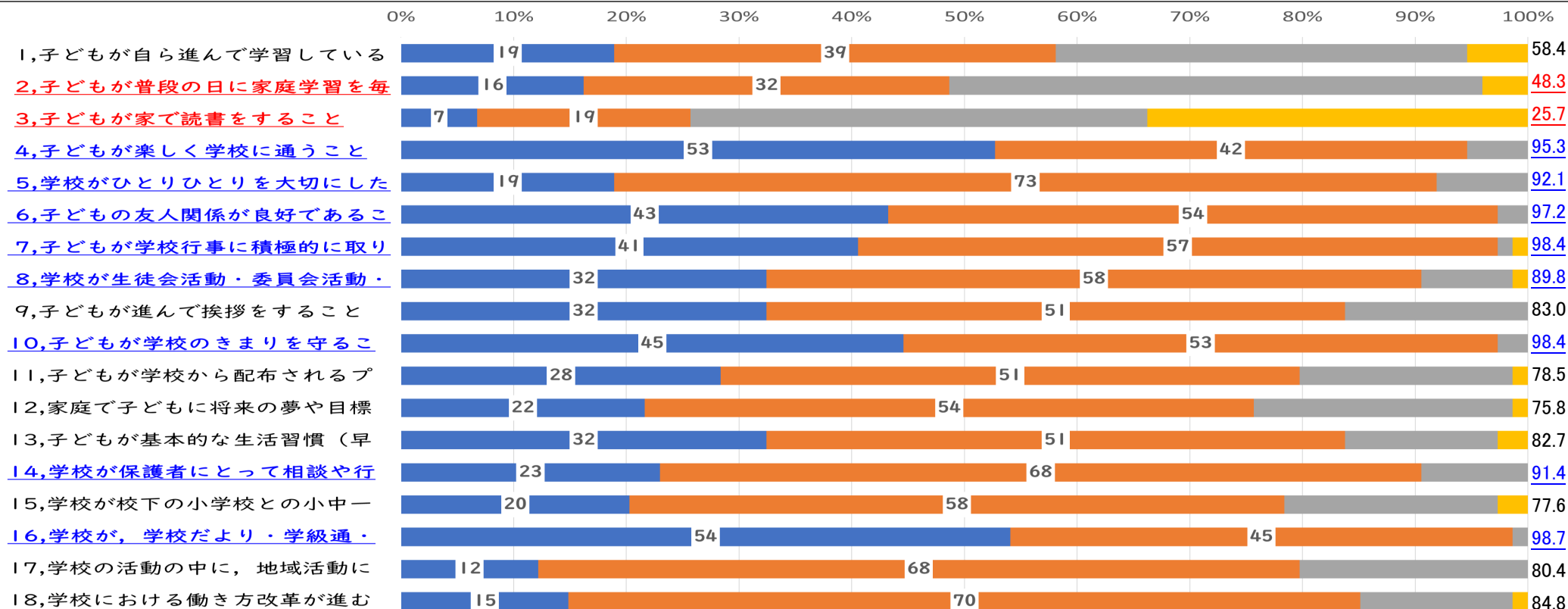
学校教育目標『豊かな心と知性をそなえ、自らの未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成』

令和6年度 京都市立九条中学校 学校評価アンケート【後期：保護者】 集計結果/分析

令和7年2月14日

京都市立九条中学校

校長 川島 浩 明



後期の保護者アンケート結果から『確かな学力』の育成に向けての項目1～3において、『2. 子どもが普段の日に家庭学習を毎日する』《48.3%》『3. 子どもが家で読書をする』《25.7%》と達成度が低く、本校生徒の学力伸長に向けての大きな課題のひとつと言える。特に読書における読解力はあらゆる学習活動に不可欠な要素であり、学力伸長には必須の能力である。今後、校時に設定している朝読書や図書館教育の充実、また、新聞やICT機器（GIGA端末）による電子図書等の有効活用など、活字に興味・関心を高めさせるための工夫も必要である。

次に『豊かな心』の育成に向けての項目4～12では、『4,子どもが楽しく学校に通う』《95.3%》、『5,学校がひとりひとりを大切に教育活動を行う』《92.1%》、『6,子どもの友人関係が良好である』《97.2%》、『7,子どもが学校行事に積極的に取り組む』《98.4%》、『8,学校が生徒会活動・委員会活動などを積極的に行う』《89.8%》、『10,子どもが学校のきまりを守る』《98.4%》といった大変良好な結果を得る事が出来た。本年度からの取り組みである全校生徒が学年の枠を越えたグループ活動である『たてわり活動』の活性化が上級生のリーダーシップの醸成、また、部活動や委員会活動以外での人間関係の構築といった生徒の豊かな心の育成、自己有用感や達成感といった多感な中学生期の豊かな心の育成に繋がっていると思う。また、何事においても『京都一』という生徒たちのキャッチフレーズにもなっているこのワードが現在の本校生徒の大きなモチベーションとなり、次年度に備えた新たな生徒会本部の活動も活性化している。

また『14,学校が保護者にとって相談や行きやすい雰囲気がある』《91.4%》、『16,学校が学校だより・通信・ホームページなどで学校の様子を発信』《98.7%》から見える、保護者の皆さまの本校教育活動への関心の高さを認識し、あらゆるご期待にお応えできるよう、今後も引き続き各ご家庭との連携を大切に生徒の健全な心身の育成につながる教育活動を実践していきたい。

最後に、15～17の『地域との関わり』については、地域、PTA、小学校との連携を基に、九条のこどもを9年間かけて育てる『施設分離型小中一貫校』としての学校教育の指針『九条生活・学習プラン』に沿った生徒の育成を通じて、学校教育目標の具現化を図りたい。

◆グラフの見方《達成度 %》

よくできている

大体できている

あまり出来ていない

出来ていない

◆学校評価アンケート項目【保護者】

- 1,子どもが自ら進んで学習していること
- 2,子どもが普段の日に家庭学習を毎日すること
- 3,子どもが家で読書をする事
- 4,子どもが楽しく学校に通うこと
- 5,学校がひとりひとりを大切にした教育活動を行うこと
- 6,子どもの友人関係が良好であること
- 7,子どもが学校行事に積極的に取り組むこと
- 8,学校が生徒会活動・委員会活動・係活動などを積極的に行うこと
- 9,子どもが進んで挨拶をすること
- 10,子どもが学校のきまりを守ること
- 11,子どもが学校から配布されるプリント等を見せたり,家で学校の話をする事
- 12,家庭で子どもに将来の夢や目標について働きかけること
- 13,子どもが基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)を身につけ,実践すること
- 14,学校が保護者にとって相談や行きやすい雰囲気があること
- 15,学校が校下の小学校との小中一貫教育を進めていること
- 16,学校が,学校だより・学級通信・ホームページなどで学校の様子を発信すること
- 17,学校の活動の中に,地域活動にかかわる機会があること
- 18,学校における働き方改革が進むこと